インバウンドの「変化の兆し」をいち早く

都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：3 月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●4 月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 3)、**3 月の訪日外客総数(推計値)は 181 万 7,500 人**と、前月(147 万 5,300 人)から増加し、コロナ禍の影響が表れ始めた 2020 年 2 月以降、最高値となった。2019 年同月比では-34.2%と前月(同-43.4%)からマイナス幅は縮小し、**コロナ禍前の 6 割強を回復した**。なお、**中国人客を除いた総数は 174 万 1,800 人**(同-15.8%)で、**コロナ禍前の 8 割強の回復**となっている。一方、出国日本人数は 69 万 4,300 人(同-64.0%)であった。単月で 60 万人超の水準となったが、急回復するインバウンド需要と比して回復のペースは依然緩やかである。結果、**1-3 月期**の訪日外客数は 479 万 272 人となり(19 年同期比-40.5%)、コロナ禍の影響が表れ始めた 20 年 1-3 月期(393 万 9,827 人)の水準を上回った。また、出国日本人数は 167 万 5,109 人となった(同-65.9%)。

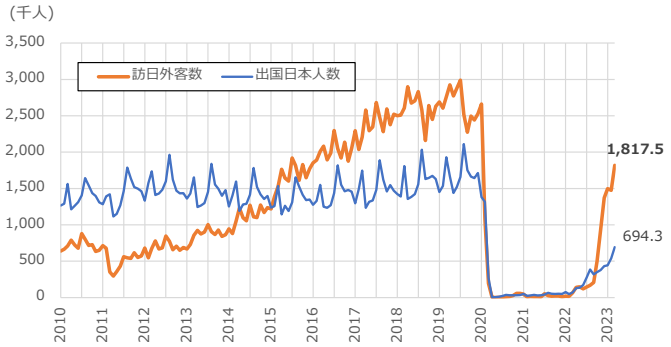
▶訪日外客数のトップ 5 を国・地域別にみると、**韓国が 46 万 6,800 人**(2019 年同月比-20.3%)**と最多**であった。次いで台湾が 27 万 8,900 人(同-30.7%)、米国が 20 万 3,000 人(**同+15.0%**)、香港が 14 万 4,900 人(同-15.5%)、タイが 10 万 8,000 人(同-26.8%)と続く。米国に加え、シンガポール、ベトナムなどがコロナ禍前の水準を上回った(図 2 及び表 3)。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、1 月は 149 万 7,472 人**となった(2019 年同月比-44.3%)(図 3 及び表 4)。うち、**観光客は 130 万 8,606 人と 2 か月連続で 100 万人を超える水準**となった(同-44.2%)。商用客は 5 万 2,995 人(同-61.8%)、その他客は 13 万 5,871 人(同-34.0%)であった。

▶観光客の TOP5 を国・地域別にみれば、1 月は韓国が **53 万 9,375 人**(2019 年同月比-25.5%)**と最多**で、**19 年 7 月(51 万 7,548 人)以来の 50 万人超の水準**となった。次いで台湾が 24 万 9,062 人(同-32.2%)、香港が 14 万 9,518 人(同-0.2%)、米国が 7 万 3,154 人(同-2.8%)、タイが 5 万 9,161 人(同-31.0%)と続く(表 4)。

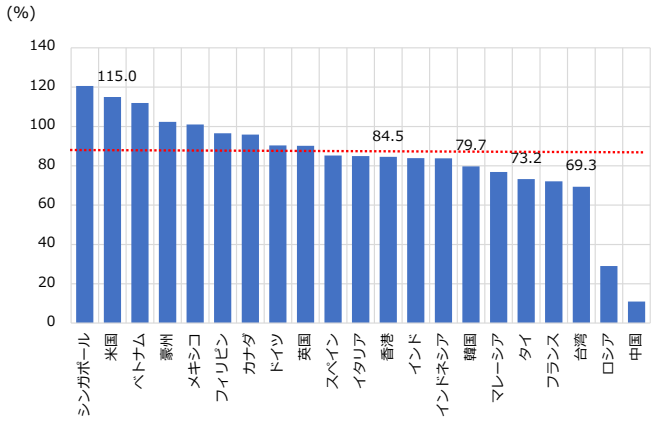
▶先行きについては日本の水際対策の終了により訪日外客の回復ペースが加速する可能性が高い。日本政府は 4 月 29 日以降、日本への渡航者に求めてきた 72 時間以内の陰性証明書やワクチン 3 回接種の証明書の提示を不要とした。水際対策が一部残っていた訪日中国人客についても同様の扱いとなるため、5 月以降、回復が期待されよう。

図 1　訪日外客数及び出国日本人数の推移



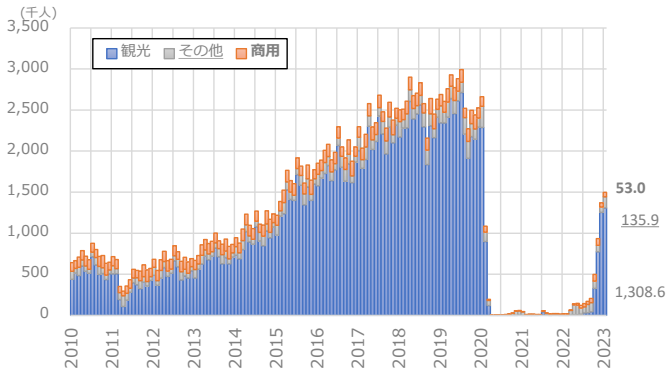
出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2021 年まで確定値、22 年、23 年 1 月は暫定値、23 年 2-3 月は推計値

図 2　国・地域別コロナ禍前との水準比較：23 年 3 月



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図 3　目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から 2 カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020 年 11 月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意頂きたい。

トピックス 1

●3 月関西の財貨・サービス貿易及び 2 月のサービス産業動向

▶関西 3 月の**輸出は前年同月比+1.3%と 2 カ月連続の増加だが、前月(同+5.3%)から減速した**(図 4)。一方、**輸入額は同+2.0%と 26 カ月連続の増加だが、2 カ月連続**(前月：同+0.2%)**で小幅伸びにとどまった。**関西の貿易収支は+2,640 億円と 2 カ月連続の黒字となったが、黒字幅は同-2.8%縮小した(前月：同+45.2%)。結果、1-3 月期の貿易収支は+2,359 億円と 2 四半期連続の黒字となったが、黒字幅は前年同期比-16.6%と縮小した。

▶対中貿易動向をみると(図 5)、関西 3 月の対中輸出は前年同月比+0.3%と 3 カ月ぶりの増加だが、小幅にとどまった(前月：同-4.4%)。輸出増に寄与したのは医薬品や原動機等であった。また、対中輸入は同+10.4%と 2 カ月ぶりの増加(前月：同-0.8%)。輸入増に寄与したのは原油及び粗油や衣類及び同附属品等であった。1-3 月期の対中輸出は前年同期比-4.9%と 12 四半期ぶりに減少した(前期：同+2.0%)。一方、対中輸入は同+4.5%と 7 四半期連続の増加だが、前期(同+20.5%)から縮小した。

▶**3 月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は** 42 万 5,327 人と、前月(36 万 9,191 人)から増加し **40 万人超の水準となった**(図 6)。2019 年同月比では-41.4%と前月(同-45.3%)からマイナス幅が縮小。また、日本人出国者数は 12 万 211 人で、前月(8 万 8,078 人)から増加し、10 万人超の水準まで回復した(同-70.3%)。結果、1-3 月期の訪日外客数は 117 万 3,816 人と前期(69 万 4,997 人)から大幅増加し、コロナ禍の影響が表れ始めた 20 年 1-3 月期(97 万 4,238 人)の水準を上回った(19 年同期比-44.0%)。また、日本人出国者数は 27 万 1,726 人(同-72.8%)となった。**インバウンド需要は 5 割強の回復だが、アウトバウンド需要は 3 割弱の回復となっている。**

▶**2 月のサービス業の活動は対面型サービス業を中心に改善した。**サービス業の生産活動を示す第 3 次産業活動指数(季節調整済み：2015 年平均=100)をみれば(図 7)、2 月は 100.8 で前月比+0.7%上昇し、2 カ月連続のプラスとなった(前月：同+0.7%)。また、対面型サービス業指数*は 99.1 で同+5.9%大幅上昇し、2 カ月連続のプラス(前月：同+2.8%)。うち、宿泊業(同+34.8%、2 カ月ぶり)やその他生活関連サービス業(同+14.1%、3 カ月ぶり)が大幅上昇した。

▶**観光関連指数****(2015 年平均=100)は、96.3 と前月比+8.6%大幅上昇し、3 カ月連続のプラス(前月：同+4.6%)(図 7)。感染の落ち着きや全国旅行支援の再開もあり、旅行業(同+49.4%、10 カ月連続)や航空旅客運送業(同+42.7%、3 カ月連続)が大幅上昇した。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店，飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図 4　関西 対世界貿易の推移

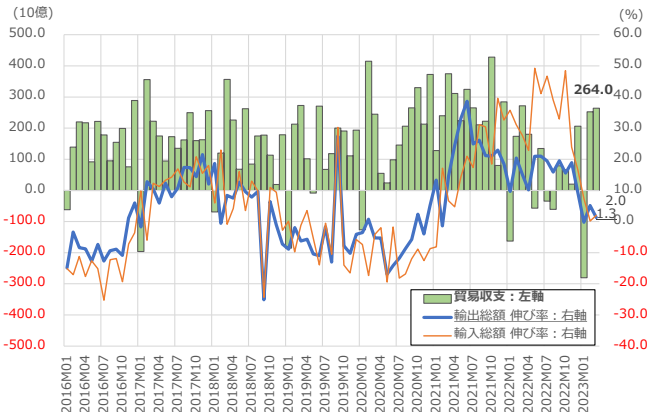
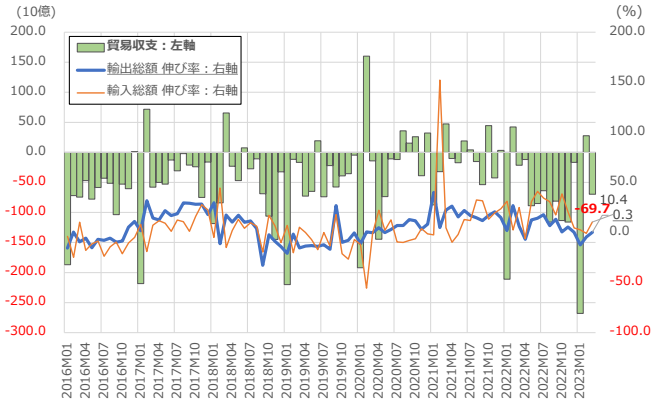
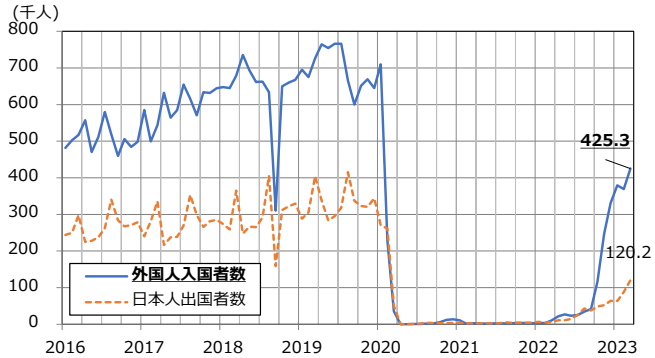


図 5 関西 対中貿易の推移



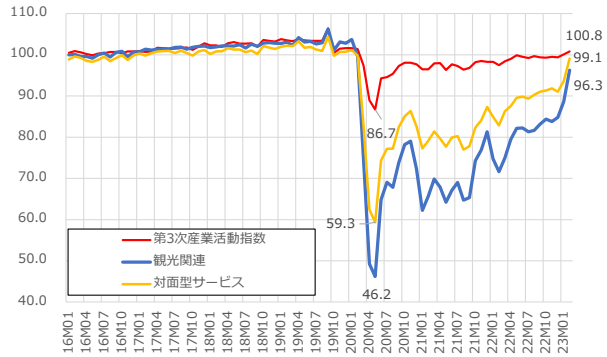
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図 6　関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2023 年 3 月値は速報値

図 7　観光関連 対面型サービス 第 3 次産業：2015 年=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●1 月延べ宿泊者数の動向：関西 2 府 8 県

▶観光庁によれば、**1 月の関西 2 府 8 県の延べ宿泊者数(全体)は 7,563.8 千人泊**であった(表 1)。**2019 年同月比では-10.0%と 2 カ月ぶりに減少に転じた(前月：同+0.1%)。**

▶**日本人延べ宿泊者数は 6,150.8 千人泊となった。2019 年同月比+2.2%と 4 カ月連続で増加したが、増加幅は前月(同+12.7%)から縮小**(表 1 及び図 8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,210.5 千人泊、京都府 1,363.1 千人泊、兵庫県 959.1 千人泊、三重県 504.7 千人泊、和歌山県 284.9 千人泊、滋賀県 241.5 千人泊、福井県 184.0 千人泊、奈良県 155.3 千人泊、徳島県 127.9 千人泊、鳥取県 119.9 千人泊であった。2019 年同月比でみると、京都府が 8 カ月連続、大阪府、兵庫県、奈良県がいずれも 4 カ月連続で増加した。

▶**外国人延べ宿泊者数は 1,413.1 千人泊と前月(1,527.6 千人泊)から幾分減少した。2019 年同月比-40.8%と減少幅は前月(同-37.7%)から拡大**(表 1 及び図 9)。水際対策の大幅緩和以降、急回復がみられていたが、回復ペースが緩やかとなった。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 846.8 千人泊、京都府 444.9 千人泊、兵庫県 57.3 千人泊、滋賀県 21.1 千人泊、和歌山県 16.1 千人泊、奈良県 9.3 千人泊、三重県 8.8 千人泊、徳島県 3.8 千人泊、福井県 2.6 千人泊、鳥取県 2.2 千人泊であった。2019 年同月比でみると、滋賀県(同-22.4%)は前月(同-61.7%)から減少幅は大幅縮小し、8 割程度を回復。また、和歌山県(同-38.5%)、京都府(同-39.7%)、大阪府(同-40.0%)では 6 割程度の回復となった。

▶関西 2 府 8 県延べ宿泊者を居住地別でみると(図 10)、県内の延べ宿泊者数は 1,356.0 千人泊(2019 年同月比+23.5%)、県外は 5,961.8 千人泊(同-13.6%)であった。伸びをみれば、県内は 16 カ月連続のプラスだが、前月(同+42.9%)から増加幅は縮小。また、県外は前月(同-2.1%)から減少幅が拡大した。

図 8　府県別日本人延べ宿泊者数 推移

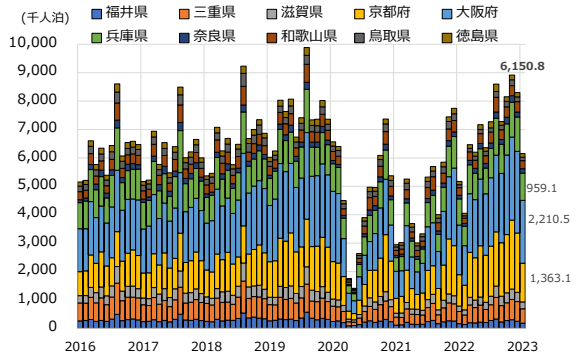


図 9　府県別外国人延べ宿泊者数の推移

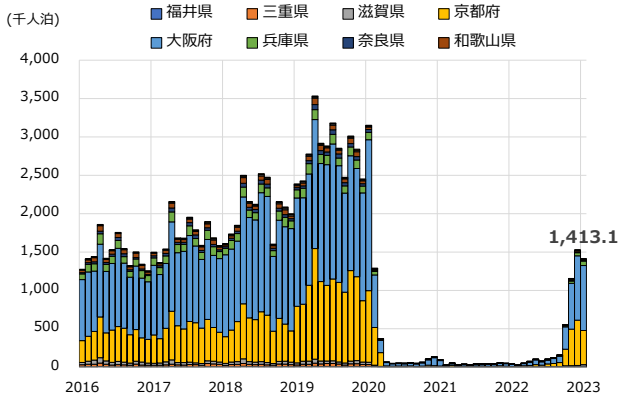
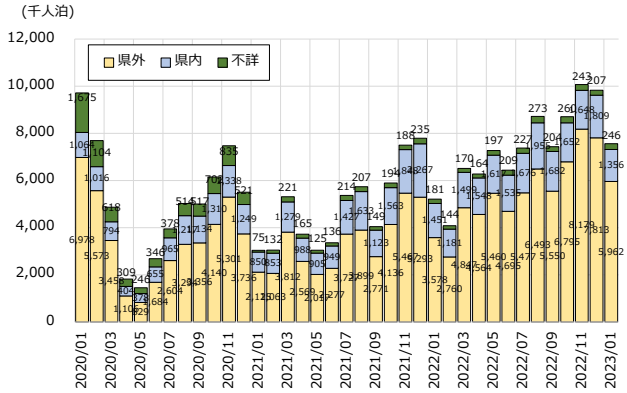


図 10　関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表 1　関西 延べ宿泊者数伸び率：1 月

2023年1月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数：(千人泊)	伸び率：22年比(%)	伸び率：19年比(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	伸び率：22年比(%)	伸び率：19年比(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	伸び率：22年比(%)	伸び率：19年比(%)
福井県	186.6	11.9	-31.4	184.0	10.6	-30.6	2.6	712.5	-63.7
三重県	513.4	19.9	-12.9	504.7	18.3	-11.2	8.8	507.6	-58.5
滋賀県	262.7	36.9	-9.6	241.5	26.5	-8.2	21.1	2,012.0	-22.4
京都府	1,808.0	62.5	-9.1	1,363.1	23.2	9.0	444.9	7,181.7	-39.7
大阪府	3,057.4	72.5	-9.8	2,210.5	26.6	11.7	846.8	3,058.7	-40.0
兵庫県	1,016.4	10.2	-3.9	959.1	4.2	0.8	57.3	3,438.9	-46.1
奈良県	164.6	29.5	14.9	155.3	22.9	35.3	9.3	1,175.3	-67.3
和歌山県	301.0	12.1	-10.3	284.9	6.3	-7.9	16.1	2,887.0	-38.5
鳥取県	122.1	16.8	-33.0	119.9	14.8	-28.5	2.2	1,500.0	-84.7
徳島県	131.7	13.9	-17.1	127.9	10.7	-15.8	3.8	2,027.8	-45.4
関西2府4県	6,610.0	50.4	-8.3	5,214.3	19.6	7.1	1,395.6	3,691.5	-40.3
関西2府8県	**7,563.8**	**45.2**	**-10.0**	**6,150.8**	**18.9**	**2.2**	**1,413.1**	**3,533.5**	**-40.8**
全国	39,494.9	38.9	-7.5	33,436.8	18.5	-0.1	6,058.1	2,656.5	-34.2

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図 8～10 及び表 1)

トピックス 3

●2023 年 1-3 月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、**2023 年 1-3 月期の訪日外国人消費額**(速報、全目的ベース)は **1 兆 146 億円**であった(10-12 月期：5,949 億円)(図 11)。2019 年同期比-11.9%と**コロナ禍前の 9 割近くを回復**した。訪日外客数の伸びが同-40.5%であることを考慮すれば、消費単価は着実に上昇した。この背景には円安の影響や旅行者の嗜好の変化が影響しているようである。

▶訪日外国人消費のトップ 5 を国・地域別にみれば(図 12)、韓国が 1,999 億円(2019 年同期比+30.3%)で最多となった。次いで台湾が 1,535 億円(同+0.7%)、中国が 1,069 億円(同-74.8%)、香港が 1,054 億円(同+27.3%)、米国が 998 億円(同+62.5%)と続く。中国を除く東アジアの国・地域や米国はコロナ禍前を回復した。一方、中国は訪日中国人客数の回復が遅れていることもあり、依然コロナ禍前を下回っている。

▶**一般客 1 人当たり旅行支出**(全目的)は **21 万 1,957 円**となった。**2019 年同期比で+43.8%となりコロナ禍前を上回った。**国・地域別にみれば、中国は 74 万 6,591 円(同+241.9%)と最も高い。次いで、オーストラリアが 35 万 8,476 円(同+46.0%)、フランスが 30 万 69 円(同+70.9%)、スペインが 28 万 4,951 円(同+66.3%)、英国が 27 万 7,229 円(同+49.0%)となっている(表 2)。この背景には円安に加え、欧米豪を中心に長期滞在の旅行者が増加したことが単価の上昇に影響しているようである。

▶**平均泊数をみれば、全体で 13.9 泊**と 2019 年同期(8.5 泊)から **5 泊程度増加**している。国・地域別にみれば、中国は 75.8 泊と 19 年同期(7.7 泊)に比して大幅増加。米国は 13.3 泊、豪州は 16.0 泊といずれも 19 年同期(米国：12.4 泊、豪州：13.7 泊)から増加しているが、小幅にとどまっている。なお、ベトナムは 35.5 泊と 19 年同期(45.4 泊)から減少している。

*トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。

**「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1 年未満の滞在者が対象である。

図 11　訪日外国人消費額の推移

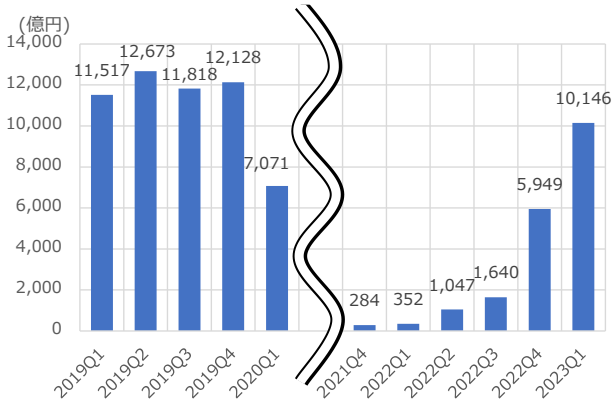
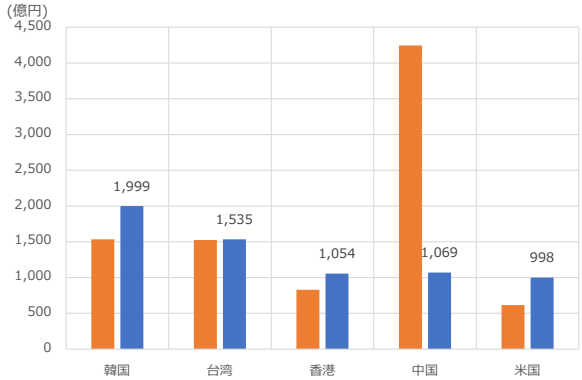


図 12　訪日外国人消費額の上位 5 か国・地域：2023 年 1-3 月期



(注)「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族･知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2019 年は確報、23 年 1-3 月期は速報。
出所:観光庁『訪日外国人消費動向調査』より作成(上図も同様)

表 2　国・地域別一般客 1 人当たり旅行支出(全目的)：2023 年 1-3 月

国･地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2019年1-3月期(円/人)	147,413	73,733	130,518	164,813	218,362	131,544	168,602	133,567	124,197	97,208	181,956
2023年1-3月期(円/人)	211,957	124,913	195,152	253,311	746,591	199,786	247,327	233,406	186,655	144,724	205,296
19年同期比(%)	43.8	69.4	49.5	53.7	241.9	51.9	46.7	74.7	50.3	48.9	12.8
国･地域	**インド**	**英国**	**ドイツ**	**フランス**	**イタリア**	**スペイン**	**ロシア**	**米国**	**カナダ**	**オーストラリア**	**その他**
2019年1-3月期(円/人)	140,663	186,026	187,590	175,603	154,456	171,348	141,467	168,409	160,972	245,533	178,160
2023年1-3月期(円/人)	206,970	277,229	256,693	300,069	275,293	284,951	233,265	264,289	193,745	358,476	282,147
19年同期比(%)	47.1	49.0	36.8	70.9	78.2	66.3	64.9	56.9	20.4	46.0	58.4

(注)国籍・地域別の結果については、従来に比べて入国者数が少ないため十分な回答数が確保できない等の理由から、標準誤差率の大きい国籍・地域もある。
出所：観光庁『訪日外国人消費動向調査』より作成。

表 3　2023 年 3 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (対 2019 年比)

国・地域	総数　Total			総数　Total		
	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)
	3月	3月		1-3月	1-3月	
総数	2,760,136	1,817,500	-34.2	8,053,797	4,790,300	-40.5
総数(中国除く)	1,963,127	1,646,800	-16.1	5,641,291	4,449,300	-21.1
韓国	585,586	466,800	-20.3	2,080,773	1,600,700	-23.1
中国	691,279	75,700	-89.0	2,169,317	143,200	-93.4
台湾	402,433	278,900	-30.7	1,189,760	786,700	-33.9
香港	171,430	144,900	-15.5	505,046	416,200	-17.6
タイ	147,443	108,000	-26.8	347,937	244,700	-29.7
シンガポール	43,687	52,700	20.6	92,465	106,500	15.2
マレーシア	50,615	38,900	-23.1	118,674	98,000	-17.4
インドネシア	39,609	33,200	-16.2	96,708	82,600	-14.6
フィリピン	48,277	46,600	-3.5	119,434	110,200	-7.7
ベトナム	47,881	53,600	11.9	122,633	161,000	31.3
インド	17,752	14,900	-16.1	39,291	31,100	-20.8
豪州	44,175	45,200	2.3	172,896	135,500	-21.6
米国	176,564	203,000	15.0	372,424	378,000	1.5
カナダ	37,959	36,400	-4.1	84,135	74,100	-11.9
メキシコ	5,740	5,800	1.0	12,244	10,400	-15.1
英国	38,610	34,800	-9.9	83,718	65,500	-21.8
フランス	29,408	21,200	-27.9	62,125	43,300	-30.3
ドイツ	28,659	25,900	-9.6	53,401	42,600	-20.2
イタリア	14,956	12,700	-15.1	26,886	21,600	-19.7
ロシア	8,916	7,600	-14.8	17,831	14,000	-21.5
スペイン	11,701	3,400	-70.9	23,618	6,400	-72.9
中東地域	11,726	12,300	4.9	19,292	20,200	4.7
その他	105,730	95,000	-10.1	243,189	197,800	-18.7

表 4　2023 年 1 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対 2019 年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)
	1月	1月		1月	1月		1月	1月		1月	1月	
総数	2,689,339	1,497,472	-44.3	2,345,029	1,308,606	-44.2	138,566	52,995	-61.8	205,744	135,871	-34.0
韓国	779,383	565,251	-27.5	723,799	539,375	-25.5	30,426	11,152	-63.3	25,158	14,724	-41.5
中国	754,421	31,291	-95.9	654,818	15,010	-97.7	27,959	4,033	-85.6	71,644	12,248	-82.9
台湾	387,498	259,340	-33.1	367,231	249,062	-32.2	9,816	3,087	-68.6	10,451	7,191	-31.2
香港	154,292	151,939	-1.5	149,767	149,518	-0.2	2,983	1,052	-64.7	1,542	1,369	-11.2
タイ	92,649	63,431	-31.5	85,718	59,161	-31.0	3,065	1,577	-48.5	3,866	2,693	-30.3
シンガポール	22,676	26,658	17.6	19,336	25,144	30.0	2,774	1,097	-60.5	566	417	-26.3
マレーシア	31,399	27,099	-13.7	27,893	25,010	-10.3	2,061	897	-56.5	1,445	1,192	-17.5
インドネシア	32,477	22,618	-30.4	26,593	14,960	-43.7	1,801	909	-49.5	4,083	6,749	65.3
フィリピン	35,987	29,679	-17.5	24,727	19,778	-20.0	2,726	2,024	-25.8	8,534	7,877	-7.7
ベトナム	35,375	51,564	45.8	5,657	9,046	59.9	2,114	1,712	-19.0	27,604	40,806	47.8
インド	12,468	9,057	-27.4	2,390	2,033	-14.9	4,503	2,160	-52.0	5,575	4,864	-12.8
豪州	81,063	52,553	-35.2	77,030	50,493	-34.5	2,198	971	-55.8	1,835	1,089	-40.7
米国	103,191	88,114	-14.6	75,253	73,154	-2.8	16,971	7,540	-55.6	10,967	7,420	-32.3
カナダ	22,293	18,738	-15.9	18,665	16,983	-9.0	1,706	691	-59.5	1,922	1,064	-44.6
メキシコ	3,615	2,271	-37.2	2,797	1,707	-39.0	368	225	-38.9	450	339	-24.7
英国	21,554	15,096	-30.0	14,225	11,269	-20.8	4,267	1,866	-56.3	3,062	1,961	-36.0
フランス	15,320	9,771	-36.2	8,539	6,460	-24.3	3,572	1,385	-61.2	3,209	1,926	-40.0
ドイツ	11,358	7,380	-35.0	5,525	4,412	-20.1	4,254	1,851	-56.5	1,579	1,117	-29.3
イタリア	6,033	4,305	-28.6	3,424	2,768	-19.2	1,612	806	-50.0	997	731	-26.7
ロシア	6,316	1,628	-74.2	4,062	739	-81.8	1,237	406	-67.2	1,017	483	-52.5
スペイン	4,382	3,075	-29.8	2,704	2,096	-22.5	760	356	-53.2	918	623	-32.1
中東地域	3,936	4,038	2.6	2,311	3,047	31.8	839	585	-30.3	786	406	-48.3
その他	71,653	52,576	-99.3	42,565	27,381	-99.4	10,554	6,613	-99.4	18,534	18,582	-99.0

注) 目的別訪日外客数の定義については、図 3 注参照。
出所: 日本政府観光局(JNTO)、2023 年 4 月 19 日付より筆者加工